

男女共同参画社会をめざす

ゆうれポート 7



特集 男にきく男女共同参画

—地域、家庭、仕事で—

平成19年6月21日発行
刊行物登録番号1811027

発行/東京都北区子ども家庭部男女共同参画推進課

〒114-8508 北区王子本町1-15-22
TEL:03-3990-9307 FAX:03-3990-6606

情報コーナー

【男が語る男女共同参画】

本を通して、男性のさまざまな生き方・暮らし方や、抱える問題などについて考えてみませんか。

- 『経産省の山田課長補佐、ただいま育休中』[599]
山田正人著/日本経済新聞社/2006
- 『中年からはじめる男の料理術』[596]
川本敏郎著/平凡社/2006
- 『男性ヘルパーという仕事』[369]
山口道宏編著/現代書館/2006
- 『壊れる男たち』[368]
金子雅臣著/岩波書店/2006
- 『定年の技術』[367.7]
日経マスターズ編集部編/日経BP社/2005
- 『男の電話相談』[146]
『男』悩みのホットライン編著/かもがわ出版/2006

『私の仕事 私の働き方』

—72人の女性の現場報告— [366]
働く女性のネットワーク「よこの会」編著/講談社/2006

働く女性が、職種や世代などさまざまな働く女性にインタビューしてまとめた本。仕事と私生活、仕事の目標や夢、仕事のストレスをテーマに、いろいろな事情を抱えながらも、鮮やかでしなやかに働く身近な普通の女性たちの人生が語られています。まだまだ働く女性の不安や問題が山積する今、私の働き方とは？ 自分らしく働くとは？ そんな迷いに勇気やヒントを与えてくれるでしょう。

新着図書のご紹介

- 『人生なかばのギアチェンジ』[367.2]
杉山由美子著/オレンジページ/2006
- 『ジェンダーの西洋史 改訂版』[367.2]
井上洋子・他著/法律文化社/2006
- 『迷走する家族』[367.3]
山田昌弘著/有斐閣/2005
- 『明治の結婚明治の離婚』[367.4]
湯沢雅彦著/角川学芸出版/2005
- 『デートレイプってなに?』[367.6]
アンドレア パロット著/大月書店/2005
- 『親子再生』[368]
佐伯裕子・他著/小学館/2006
- 『DV防止とこれからの被害当事者支援』[368]
戒能民江編著/ミネルヴァ書房/2006
- 『月経と犯罪』[368]
田中ひかる著/批評社/2006
- 『これでわかる生活保護制度Q&A』[369]
ミス総合企画編著/ミネルヴァ書房/2005
- 『女性問題と社会教育』[379]
中藤洋子著/ドメス出版/2005
- 『女性泌尿器科外来へ行こう』[495]
竹山政美・他著/法研/2005
- 『音楽サロン—秘められた女性文化史—』[762]
ヴェロニカ・バーチ著/音楽之友社/2005
- 『幸福論』[914オ]
小倉千加子・中村うさぎ著/岩波書店/2006

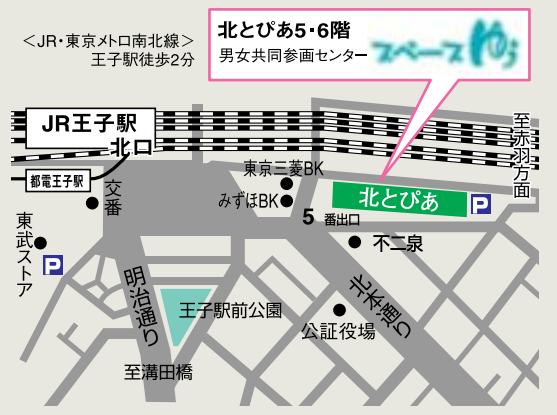
「ゆうれポート」No.6 新着図書のご紹介で、「カミングアウト」[916オ] 尾辻かな子著/講談社/2005の下線部分が抜けていました。お詫びして訂正いたします。

GALLERY

作/布の絵本グループ 5つのふうせんの会

やわらかな手触りの良さに引かれて布の絵本を作り始めて数年。グループ名は最初に作った布絵本が「5つのふうせん」だったことによります。東南アジア保育支援実行委員会の協力グループとして、主にタイなどに保育教材を作って送っています。タイの子どもたちが描いた大きな絵を布で再現して、タイの子どもたちのもとへ、持って行ったこともあります。このようなボランティアワークも会の目的の一つになっています。

この作品は神沢利子さんの「たまごのあかちゃん」の部分です。ちょっとした仕掛けを作って遊べるようにしたり、スナップやボタンかけなど指先の訓練になる要素も加えています。触って楽しんでください。



編集後記

今回は「男にきく男女共同参画」という特集でお送りしましたが、いかがでしたか。5人のみなさんに共通して感じたことは、無理をしないで、楽しく楽しんでそれぞれの生活を送られているということでした。みなさんとてもいい顔をされていますよね。一人ひとりが個人として輝いていることが男女共同参画社会が目指すもののひとつです。北区でも男女共同参画に関する条例案を区議会に提出しています。多くの方にご理解いただき、今回登場された5人の方のように男女共同参画社会の一員として地域・家庭・仕事で輝いて暮らせるとういすね。「北区にゆかりの女性たち」にご登場いただいた竹宇治さん。北区にローマオリピックの銅メダリストが住んでいることをご存知でしたか？お忙しいところインタビューにご協力いただいたみなさまに紙面をお借りしてお礼を申し上げます。

図5 社会福祉施設等の性、職種別常勤換算従事者数・男女割合 (2003年)

	総数	女性割合	男性割合
総数	699,076	82.8	17.2
施設長	41,134	51.3	48.7
医師	4,200	18.4	81.6
保健師	2,116	97.8	2.2
看護師	24,020	93.9	6.1
精神保健福祉士	1,377	59.5	40.5
ソーシャルワーカー	2,581	64.9	35.1
保育士・児童生活支援員	314,397	98.2	1.8
介護職員	45,530	79.2	20.8
栄養士	13,043	95.6	4.4
調理員	69,348	93.5	6.5
その他の職員	29,119	62.2	37.8

出典：厚生労働省「平成15年 社会福祉行政業務報告」より作成

仕事における男女の領域を超えて

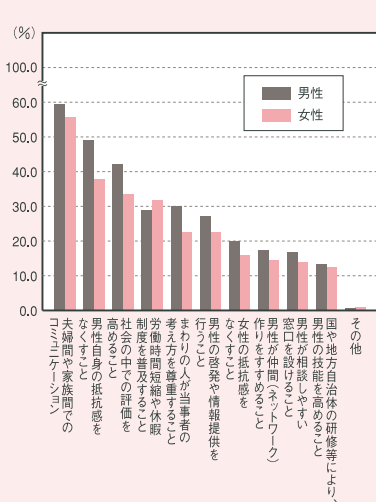
85年の「男女雇用機会均等法」をきっかけにして、以前は「男の領域」とされてきた職種が女性に開放されました。以前では女性自衛官も増え、女性ドライバーのタクシーに乗ることもあります。それと同時に以前は、「女の領域」とされてきた保健師、看護師、保育士などに男性が進出しています。しかし社会福祉施設全体での男女比率を見ると、女性が80%以上を占め、男性はまだ少数です(図5)。高齢者や子どもの世話をする介護や育児分野はまだまだ女性が多く、しかも1年契約を更新するという形の非正規雇用の労働者が多いのが実情です。もっとも男性が増えることによって、賃金などの労働条件も向上するのではないのでしょうか。

ここでは長年男性保育士として働いてこられた共田さんに、思いや経験を語っていただきます。

対話と自立を育てる家庭

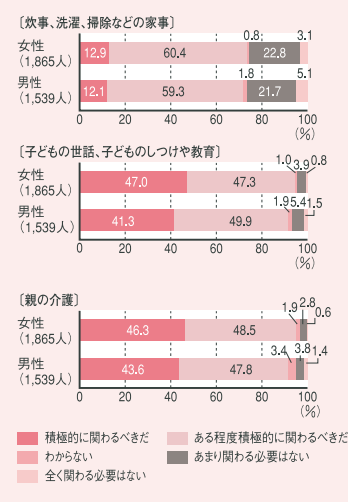
男性の家庭への参加の大切さは、世界的な共通の課題であり、81年に「男女労働者、家族的責任を有する労働者の機会均等及び平等待遇に関する条約」が国連で採択され、日本も95年に批准しました。男性の育児、介護を進める育児休業法が91年に成立し、99年には育児・介護休業法と改正されました。「男性の家事・子どもの世話・介護の関わり方意識」によると、「子どもの世話」と「親の介護」に積極的に関わるべきだとする人は40%を超えています。炊事などの家事が著しく少ないことがわかります(図3)。また、「男性が家庭生活や地域生活へ参加するために必要なこと」として、女性、男性とも約6割が「夫婦や家族間でのコミュニケーションを上げています(図4)。両親と子どもだけでなく、ひとり親、3世代同居、国際結婚家庭、単身世帯など、多様な家庭、家族、世帯があります。その構成員の一人ひとりが、家庭でも社会でも、尊重されなければなりません。ここでは、料理の得意な毛塚さんと、家族とのコミュニケーションを楽しむ栗原さんをご紹介します。

図4 男性が家事、育児、介護、地域活動へ参加するために必要なこと (2004年)



出典：内閣府「男女共同参画社会に関する世論調査—男性のライフスタイルを中心に—」2000年

図3 男性の家事・子どもの世話・介護への関わり方についての意識 (2000年)



「気分わず やっつけたい」

共田鍾貴さん(ともたしょうき) 76年生まれ 保育士



区内の私立保育園で10年。小学生の頃から歌が好きで、女子が圧倒的に多い合唱部で毎日練習をする。そんな青春時代だったと笑う。中学生の時、授業や実験がおもしろくていつも準備室に入り浸っていた。将来は、そうさせてくれた生物の先生みたいになりたいなと思ったり、部活の上級生も大勢行っている保育専門学校もいいかな...と思ったり。歌うことが好きな共田さんにはそれもごく自然なことだったが、韓国人で日本人に負けまいと思つて生きてきたおかあさんには、大学に進学せず、保育専門学校に行つて保育士になりたいと考える長男を受け入れられず、毎日、壮絶なけんかを繰り返して、ようやく受験するだけならと承諾。折り合つてくれたそうだ。

保育専門学校は80人のうち男性7人。お互いに、大勢の女性の中にいることはまったく気にならないし、気にしなかったという。親とケンカしながら意地になって進んだ保育の世界だったが、1年目の実習で実際に子どもとどう関わっていくのか戸惑い、これでは保育士にはなれないと気を引き締めた。その成果が、2年目の実習でようやく自信がもてるようになったものの、卒業後は狭き門だった。男は探りません」とあからさまに断られたり、「男性用のトイレがない」と面接試験を受けさせてもらえないことも多く、諦めかけた頃男性を探していた今の保育園に採用された。男性は他に2人いて「郷に入つては郷に従え」をモットーに働いてきた。男性保育士がいるとお父さんが保育園や子育てに関わりやすいと言われるが、感じるのは性別の違いより、一人ひとりの違いの方が大きいということ。もう14年も続いている「おやじの会」も、男の保育士がいることがきっかけで作られたが、ここ数年は「おやじ」ばかりの活動ではなく、それぞれの家族も一緒に活動になり、確実に輪が広がっている。「保育園に大人の男がいるっていうのも、いいと思いませんか?」と笑う共田さんだ。

「料理はいいストレス解消」

毛塚裕之さん(けづかひろゆき) '54年生まれ 北区職員



料理が好きになつたきっかけは、子どもの頃にさかのぼる。共働きの両親と年の離れた兄二人をもつ末っ子。家にいつも食材があつたので、必要に迫られて自分で作つて食べていた。学生時代に中華料理店で血洗いのアルバイトをしていたとき、「毛塚が見ているぞ」と言われるほど調理法を観察し、その店の料理は全部出来るようになった。レストランのショーケースを見るのも大好きで、メニューの盛り付けを見て参考にする。現在、妻も一人娘も働く家庭では、毎朝3人の朝食と、妻は職場で昼食をとるので、娘と彼2人分のお弁当を作る。用意を終え娘を起こす時、ささやかだがしみじみ幸せを感じると、とてもやさしい笑顔が浮かぶ。平日の夕食は、仕事が早く終わる妻が作り、週末と、時々開くホームパーティーの料理は、全部彼がつくる。お得意は、中華料理。手作りの料理は、素材や調味料など自分でいいものを選んで、健康のためになるし、家族をはじめ、親戚やともだちみんなとおしもの食べるのは、コミュニケーションづくりにもとてもいい。最近は共働きのカップルも増えている。料理は妻まかせという家庭も多いかもしれないが、家庭はギブアンドテイク。料理が苦手な男性もたとえばカレーなど、インスタントのルーから始めて、その中に肉、次回は魚と具材を変えて味を楽しみ、工夫し、そして、料理の種類も増やしていけばいい。食材も家族でいっしょに買いに行くこと楽しい、いま入院中で週末帰宅する母親に、美味しい料理を作つて食べさせる。見舞いに行く、週末何を食べたかを思い出し、嬉しそうに話すという。

「料理はとてもいいストレス解消になります」。父親、夫、息子の3役を、彼自身が楽しんでこなしている毛塚さん。今日は何んな料理で回りの人々を幸せにしているのだろうか。

「でも僕が一番おしゃべりかな」

栗原正典さん(くりはらまさのり) '56年生まれ 学習塾経営



栗原さんの1日は、音楽教師の妻、20歳の長男、18歳の次男の朝食づくりから始まる。彼自身はカロリー制限をしているので朝食は食べない。朝食づくりのきっかけは、かつて妻が夜洗濯をし、干していたので、「朝にした」と言つたところ、朝食づくりがあるから「と言ったので」「じゃあ自分がつくる」ことに。朝食用の1週間の食材の買い物もする。子育てにもけっこう関つた。長男が生まれたとき当時公立保育園は1歳児からしか受け付けてもらえず、妻が仕事に復帰した後の4カ月は、彼が家で子どもをみた。だから若い母親が育児ノイローゼになるのは、分かるような気がした。2年後次男が生まれたときは、0歳児から私立の保育園に入れた。長男は公立、次男は私立と保育所のハンコをした。冬、ねんね半纏を着て自転車で2児を運ぶ姿は、当時ではめづらしかつたらしい。そのうち塾を開き息子たちも入れたので、わが子と過ごす時間はすくなく長かつた。そのせいか息子たちとは、まるで兄弟のようだとと言われると、顔がほころぶ。塾で教えているせいもあり、あるとき北区の「カウンセリング講座」を受けた。そこで学んだのは、何を聞いてもとがめないで「聞き」、そして「ジャッジをしない」ということ。息子たちが何を話しても「ウンウン」と聞いた。塾は午後4〜9時なのでウィークデーは遅くなる。土、日は必ず家族で食卓を囲む。一番のおいしいおかずは、みんなの「おしゃべり」。「でも僕が一番おしゃべりかな」。

若いとき、外国人のヒアシストのマネージャーをして、2カ月間日本全国を回つた。その時彼から、人を大切にすることを学んだ。その直後の時期ミュージシャンをした。いま保育園の「園歌」を作つたり、クリスマス会で歌っていたら、昔の声に戻つてきた。作詞の「ついでに、王子小学校の愛唱歌」はくらは王子っ子」がある。9月2日に「プラネタリウムホール」で、歌と語りのライブを行う。長男が照明、妻が飲み物を担当する。高校同窓生の妻には、17歳のときから誕生日プレゼントをしてきた。32回目になる今年は、「何にしようかな」。

男性も悩みを相談してみませんか

男は一家の大黒柱で家族を養う者、男は精神的にも肉体的にも強くあるべきという意識はまだまだ強くあります。そのためストレスなどで失業すると、男の役割が果たせず男性失格と思ひ込んで、性的にも強くあらねばと悩みを抱え込んでしまつたり、話し合いの前に妻を殴つたり...。そして悩みを語ることが、男らしくないと思ひ込んでいる男性も少なくないのではないのでしょうか。男性も「しんどいつらい」と言つていい、「我慢できず、つい暴力を振るつてしまふ」などの深刻な悩みを相談していいのです。男の悩み相談は、真の男女共同参画のためにもとても大切なことです。

■男の悩み相談

ここでは男性のための電話相談をご紹介します。

東京ワイメンズクラブ 男性相談 ☎03-3400-5313
月、水曜日 午後5〜8時

「男」悩みのほっとライン(大阪) ☎06-6945-0252
毎月1・2・3月曜日午後7〜9時

■北区の精神保健相談

北区では性別を問わず、心の不調うつ不眠などの相談をしたい方のための相談窓口があります。電話予約が必要です。

王子障害相談係 ☎03-3990-0801
毎月第4水曜日 午後1時30分〜3時30分

赤羽障害相談係 ☎03-3990-4161
毎月第4水曜日 午後1時30分〜3時30分

滝野川障害相談係 ☎03-3915-0134
毎月第2火曜日 午前9時〜11時

参考文献

- 『男女共同参画統計データブック—日本の女性と男性—2006』国立女性教育会館・他編/ぎょうせい/2006
- 『男女共同参画白書 平成17年版』内閣府男女共同参画局編/国立印刷局/2005
- 『男の電話相談 男が語る・男が聴く』『男』悩みのホットライン編著/かもがわ出版/2006
- 『「男らしさ」から「自分らしさ」へ』メンズセンター編/かもがわ出版/1996



＊JWS…スポーツという手段や分野によって男女共同参画社会を築くことを目的に設立。スポーツにおける女性の参加・スポーツ界における女性の地位の向上によって女性全体の資質と社会的地位の向上も視野に入れている。国内ばかりでなく国際的な組織と連携し、日本や世界のあらゆる場、あらゆる機会、あらゆる人たちに啓発、支援活動を行っている。

竹宇治さんが実行委員長をつとめ、企画から実施まですべて女性によって行われるウーマンズ・スイムフェスティバルも今年で10年目を迎えます。テーマは「貴女の力は無限大」。80歳代はもちろん90歳代もめずらしくはありません。中には病気の後遺症を抱えながらの参加者もいます。『2006世界女性スポーツ会議くまもと』が5月11日〜14日まで竹宇治さんが実行委員長を務め、ふるさと熊本で開催されました。テーマは「変化への参加」。

「私たちはスポーツを通して男女共同参画社会実現のため、世界のスポーツ界に影響をもつ関係機関および個人が密接な協働をめざすネットワークを築き、今後4年間熊本会議で生まれた積極的な「変化への参加」というビジョンを確実に推進します」という熊本協働宣言が採択されました。現在も江戸川区でぜんそく児のための水泳教室、働く中高年女性の健康、体力の保持、推進に関する研究プロジェクト「華の空」の活動と身をもつて女性が継続してスポーツをすることを示している竹宇治さん。「誰もががしたい時にスポーツをできる環境づくりとともに、指導や意思決定機関への女性の参加がもっと必要」であり「なにことも体が基本。子どもの頃から体を動かす喜びを植えつけたいし、お金がなくてもスポーツができる体制にどう変えるかが重要」と語っています。

スポーツが 続けられる環境を…

そく児の苦しみや家族の苦勞も知っている上に、誰もが知るメダリスト。竹宇治さんも「水泳を通して貢献できるなら」と西岡医師と2人3脚でプールを探すところから始め、医師と看護師、酸素吸入器をプールに設置してのぜんそく児のための水泳教室が始まりました。胸郭が変形するほどの重症児が6カ月水泳をしただけで症状が改善されました。4年間の貴重なテーマは厚生省(当時)を動かし日本初の病院内プール設置へと結実します。その親や看護師との輪はひろがり、竹宇治さんは6年半で東京に転居したもののその活動は受け継がれ今年で28年になります。



▲2006世界女性スポーツ会議くまもと協働宣言より 書：田島親一氏

中学校新記録を2度出し、めきめき力をつけて中学3年生でアジア大会の出場を決めます。「これで水泳をやめられない」と実感したそうです。当時、博多〜東京は夜行列車で14時間。冬季

熊本市の南、上益城郡嘉島町生まれ、福岡の筑紫女学園に進学するまでそこで育ちました。自宅近くに1年中18度の水がこんこんとわく湧水池があり、みんなが野菜を洗ったり米を研いだり、下流では洗濯をしたり馬を洗ったり、豊かな水辺が生活とともにありました。湧水池の中に木の枠を組んで作った50メートルプールで行われた水泳大会。小学校6年生で背泳1位、クロール2位となり、その場で中学の先生に水泳部に入部することを約束させられました。「わたしは早いんだ」初めて思った瞬間です。

豊かな水に育まれて…

熊本市の南、上益城郡嘉島町生まれ、福岡の筑紫女学園に進学するまでそこで育ちました。自宅近くに1年中18度の水がこんこんとわく湧水池があり、みんなが野菜を洗ったり米を研いだり、下流では洗濯をしたり馬を洗ったり、豊かな水辺が生活とともにありました。

竹宇治 聰子

ローマオリンピック銅メダリスト
(社)日本マスターズ水泳協会理事
JWS (Japan Association for Woman in Sport) 理事
2006世界女性スポーツ会議くまもと実行委員

NO.5



専業主婦となつて…

1年後、同じ職場のバレーボール部所属の竹宇治清高氏と結婚。夫の転勤で福岡、北九州、東京と転居をしながら三児の母となりました。競技生活ではできなかったことを存分にやった9年間でもありました。子どもが7歳、5歳、3歳になった時、西ドイツからベイスイミングのコーチが講義に来ると聞き迷わず申込み。コーチ法の講義は、10日間朝9時〜6時まで。いつも家にいるお母さんの突然の不在は子どもにはこたえたでしょうが、やると決めたら徹底してやるいかに竹宇治さんらしいエピソードです。少しずつ外へ出始めたようにその頃、娘がぜんそくの発作で入院という思いもかけないことが起こります。当時、ぜんそくの原因は母親、という説も流布され多くの母がそのことで苦しんでいました。

ぜんそく児水泳教室

今でこそ、あちこちでみられるぜんそく児のための水泳教室ですが、竹宇治さんはこの啓発、普及に大きな貢献をしています。

福岡南病院の西岡三郎医師はぜんそく児が水泳をすることで症状が緩和すると考えていました。暖かいプールに入ればリラックスでき、体を横にして泳ぐうちにタンも出やすくなり呼吸もラクになるし、そのことにより体力もつき発作が起こりにくくなるからです。でも実践するには、水泳の実技指導をする人が必要でしたが、なかなか見つかりません。ちょうどその頃、娘のぜんそくのため紹介状を持って福岡に転居してきたのが竹宇治さんだったのでぜん

北区男女共同参画週間2006

—それぞれの人生を自分らしく— 6/24(土)〜7/1(土)

北区男女共同参画センター「スペースゆう」では、6/24(土)〜7/1(土)を「男女共同参画週間」として、さまざまな催しを開催します。どうぞご参加ください。

I 特別講演会

「だから、もっと、男女共同参画」

誰もが自分の生き方を大切にし、お互いに尊重しあえる男女共同参画社会。家庭、仕事、地域などでのその望ましいあり方について、お二人の講師に語っていただきます。

- 講師：石坂啓氏(漫画家)、伊田広行氏(大学教員)
- 日時：7/1(土) 午後2時30分〜4時30分
- 場所：「スペースゆう」プラネタリウムホール(北とびあ6階)
- 定員：150名(先着順)
- 手話通訳：あり[6/30(金)までに電話またはFAX申込]

III 講座 地域の暮らし創造塾スペシャル

「手仕事から見る女性の歴史〜近現代の日本女性と手芸〜」

近代・現代という歴史における、日本の女性たちと手芸の関係について探ります。

- 講師：山崎明子氏(東京女子大学非常勤講師)
- 日時：6/30(金) 午後6時30分〜8時30分
- 場所：「スペースゆう」多目的室A・B(北とびあ5階)
- 定員：60名(先着順)

I〜IV 共通

■参加費：無料 ■申込：6/13(火)から電話またはFAX申込

※保育希望(1歳以上就学前まで)の方はI、III、IV、は6/20(火)、IIは6/17(土)までにお申込ください。

申込・問合せ先 北区男女共同参画センター「スペースゆう」
TEL.3913-0161 FAX.3913-0081

II 講座 “韓流”から学ぼう2006

「わたしたちは本当に何にひかれたのだろうか?」

〜韓流ドラマから生まれた「気持ち」と「願い」〜
韓流ブームの背景にある日本の女性たちが抱える状況や価値観を、講師と一緒に考えてみましょう。

- 講師：林香里氏(東京大学大学院情報学環助教授)
- 日時：6/24(土) 午後2時〜4時30分
- 場所：「スペースゆう」多目的室A・B(北とびあ5階)
- 定員：80名(先着順)

IV 講座 女 からだ 生き方

「今、知っておきたい年金分割」

結婚・離婚にまつわるお金の正しい知識を得て、自分らしい生き方、暮らし方を考えてみませんか。

- 講師：丹味佐江子氏(弁護士)
- 日時：6/30(金) 午後2時〜4時
- 場所：「スペースゆう」多目的室A・B(北とびあ5階)
- 定員：60名(先着順)

ギャラリー遊 「世界に生きる女性」パネル展

世界のさまざまな地域に暮らす女性が、学校や社会、地域で学ぶ姿を紹介します。

展示期間：6/27(火)〜7/8(土)
展示場所：「スペースゆう」ギャラリー遊(北とびあ6階)